



2025年9月号 中学訪問（文責：野呂美道）



先日、ハザード会員募集の為に、愛西市の各中学校を訪問しました。左の写真は、立田中学の様です。校長先生の印象をNさんは「パワフルな校長だと思った。おしゃべりな先生だと最初は思ったが、真面目な良い先生だと思った。」と述べています。

おおむね、各中学とも、私たちの要望は、好意的に受け止められました。ただ、修学旅行で被災地研修を体験した生徒は3年生ということもあり、受験のために、すぐには参加できないかも知れませ

んが、高校に行っても、意欲があれば是非参加してほしいと力説してきました。

また、1、2年生でも意欲がある人は、是非参加してくださいとお願いしました。

第二回目の市との話し合い（文責：野呂美道）

8月10日、安泉寺で、2回目の防災についての市との話し合いが持たれました。

最初に確認したことが、この会のイニシアティブ（主導権）をとるのは行政であるということです。

私たちは請願事項で、市民たちに広く呼びかけて、防災の協議会を作ってほしいということと、立田・八開地区の防災避難計画を早急に作成してほしいことを要望しました。議員全員の賛同をいただいて請願は行政に託されました。

参加したMさんは次のように述べています。「2回目の行政との話し合いに参加しました。初めにひとりずつ出されたお題に対する意見を述べました。若者を避難訓練に参加させるにはどうするべきかという内容でしたが、次第に話は本題から逸れてしまい、遺体の保存についての話、またそもそも避難訓練が形骸化しているので、その改善が重要なのではないかという意見がでました。



本来であれば行政と一緒に協力し合うべきところを、市民 VS 行政の構造になってしまい、通常の業務に加えてわざわざ日曜日に安泉寺に来てくださったのに、追い詰めるような形になってしまったことが反省点です。私たちがお願いしていることなので、高圧的にならないようにしなければなりません。」これはいささか趣旨が違う発言です。これに対して私の妻が次のように述べました。

「ありがとう、行政に対する見解は私とは違います。請願は私たちがお願いしたことで、議会で採択されたということは、行政が主導権をとり、責任持って請願事項を進めていかなければならないことになったということなのです。行政が何もやらずノラクラしてるから市民対行政になったのは仕方ない事だと思います。話し合いの場を作ったり、市民に呼び掛けたり、これからどのように進めていくかは、ハザード会が主導するのではなく、危機管理課の通常の業務になったのです。それがきちんと成されているか賛成した全議員はチェックする義務があるのに、今のところY議員1人が行政に掛け合っている状態です。なかなか動こうとしない行政に市民が高圧的になるのは、市民の為にしっかり仕事してほしいというアピールだと思います。次回の話し合いは危機管理課から日時、場所を設定して貰うよう言っております。」

「手話サークルさる」で澤田一家が震災報告（文責：野呂博子）



愛西市には2つの手話サークルがあります。私の入っている「虹の会」、もう一つは「手話サークルさる」です。どちらの会も、聴覚障害者と健聴者が一緒に手話や指文字等でお互いのコミュニケーションをとれるよう学んでいます。毎年、サークルでは防災講演会を開催しており、今回は澤田慎一郎氏に講演をお願いしました。

澤田さんは能登半島地震で輪島で被災され、ご夫婦・子ども4人の一家6人で愛西市に引っ越してこられました。地震当時の様子・避難所での体験・困り事・被災証明・支援金の分配等、被災された経験から具体的に話していただきました。一瞬で非日常になる地震災害は想像を絶する厳しさだと改めて実感しました。

講演の後、聴覚障害者の人達から「聞こえないから災害時が心配」「今の生活にお金がかかるから備蓄品が買えない」など発言があり災害弱者の問題が浮き彫りになりました。

手話サークルの講演会では必ず手話通訳者が数名おり、今回も講演の内容をしっかりと伝えていました。講師の澤田さんにもパワーポイントに字幕を入れ、あらかじめ講演内容の原稿を通訳に渡していただき、心遣いに感謝しております。

聴覚障害に限らず災害弱者に対するあり方を、行政は一般市民と共に真剣に防災計画を考え、行動を起こしていくべきだと思います。